

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	産業クラスターのイノベーション・エコシステムにおける支援機関（コーディネート）と研究教育機関の機能と連携について				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	岸 昭雄
	研究分担者	所属・職名	静岡県立大学・名誉教授	氏名	西野 勝明
		所属・職名	静岡社会健康医学大学院大学・理事	氏名	芦川 敏洋
		所属・職名	フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンター・センター長	氏名	望月 誠
	発表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	岸 昭雄

講演題目	産業クラスターのイノベーション・エコシステムにおける研究教育機関の機能
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>製造業の集積を中心として発展した静岡県経済は、2008年のリーマンショック後経済成長率が低下し、全国平均を下回る年も珍しくない。静岡県経済の新たな発展のため、静岡県は産業クラスター政策（ファルマバレープロジェクト、フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクト、フォトンバレープロジェクト等）を実施し、県が主導して中核となる支援機関を設立し、クラスター内の各主体の連携促進によるイノベーション力の向上や地域経済への波及を目指している。</p> <p>本研究は、産業クラスター内の産学官金民からなるイノベーション・エコシステム（生態系）のうち、「学」、すなわち研究教育機関と支援機関の果たす機能と連携（役割分担）について着目する。産業クラスターのイノベーション力を向上するためには研究教育機関の果たすべき役割が大きい。支援機関が研究教育機関のシーズと市場のニーズとのマッチングを行うと共に、エコシステムの他の各主体と有機的に結びつける役割が重要になる。本研究は、支援機関が研究教育機関と連携し、他の各主体との有機的な結びつきを構築していく過程において直面する課題の抽出と対応策、考慮すべき視点などについて明らかにすることを目的とする。</p> <p>本年度は、川崎市のキングスカイフロントの事例を調査・分析した。キングスカイフロントは、川崎市が中心となり、国家戦略特区等の規制緩和・財政支援・税制支援等の優遇制度を用いて、ライフサイエンス・環境分野のクラスター形成、イノベーション創出を目指す拠点として整備された。活動報告書、現地視察、ヒアリング等から、「学」のうち「研究」の役割としてナノ医療イノベーションセンター、国立医薬品食品衛生研究所、「教育」の役割として慶應義塾大学、神奈川県立保健福祉大学大学院が立地し、イノベーションのシーズとなり得る基盤技術の提供や、技術者の供給および技術者のリカレント教育の役割を担っていることが分かった。一方で、キングスカイフロントに進出している企業は、川崎市の立地点としての魅力（交通利便性、都市圏へのアクセス等）が大きな進出理由となっている。川崎市と比較して立地点としての魅力が不足する地域は、支援機関が「学」の生み出す技術、研究、教育の魅力を最大限アピールしなければ、それが企業等の進出の大きなインセンティブとはなりにくいことが示唆される。また、「研究」「教育」を供給する機関が不足している産業クラスターに関しては、研究教育機関の誘致が難しい場合には、支援機関がその役割を受け持つ必要がある。支援機関は、クラスター外の研究教育機関との橋渡しや、オンライン等を用いた教育機会の提供等の方向性が考えられる。</p>